

LOVE in Letter 4

～輸血を受けた患者さんのメッセージ～

19歳の夏、私は再生不良性貧血になりました。緊急での入院だったため、病室に入るなり輸血。その時はただただ不思議な気持ちでした。

3ヶ月程の入院で、何度も輸血をしました。具合が悪くなることもありましたが、輸血をした日は起き上がっていただける時間が長かったり動き回れたり、自分でわかるくらい元気になりました。

点滴針とつながっている血液の袋を見ると、「青森」「山形」「秋田」など、献血してくれた人の情報がうっすらと分かりました。

まさか自分が輸血される日が来るとは思っていなかったのに、今私の体にはいろんな人が献血してくれた血が流れているのか... と思ったとき、“生きよう”と強く思いました。

今現在、薬のおかげで輸血の必要がない程によくになりました。でも私が今こうやって元気に、毎日笑っていただけるのは、あの時私の体に流れてくれたたくさんの献血者のみなさんのおかげだと思っています。

本当は“あなたのおかげで今生きてるよ、ありがとう”を伝えたいけれど、直接は伝えることができないし、どう伝えるか最適な方法を探しているうちに4年が終わってしまいました。

何らかのカタチで、この思いを献血して下さった方々に伝えられれば... と思っています。

“ありがとう” と “生きてます” を カタチで伝えたいです。